令和８年度長野県立中学校入学者選抜適性検査問題の結果について

学びの改革支援課

１　検査実施日　令和７年 12 月６日（土）

２　受検者数

	計（ ）内は倍率
屋代高等学校附属中学校	206 名（2.58 倍）
諏訪清陵高等学校附属中学校	171 名（2.14 倍）
計	377 名（2.36 倍）

３　合格者数　　両校とも、80 名

４　結果と考察

適性検査Ⅰ：社会や人に対する関わりをみる問題

適性検査Ⅱ：自然や数理に対する関わりをみる問題

(1)　適性検査別平均点の推移　（各小問別正答率(200 名の抽出)については次ページのとおり）

	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
適性検査Ⅰ	51.9	49.7	56.9	50.0	58.6	51.5	55.1	49.4	61.0	54.5	62.1
適性検査Ⅱ	48.4	44.3	50.3	37.5	42.9	37.9	41.0	50.6	53.3	40.0	59.6

・適性検査Ⅰ・Ⅱ共に、昨年度の平均点を大きく上回った。

(2)　まとまった文章を書く問題の無答率の推移（適性検査Ⅰ【問４】）200 名の抽出

	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
無答率	17.5	22.0	17.5	15.0	23.5	30.0	19.5	31.0	31.0	13.5	25.0

・Ｒ７年度は 80 字以上 100 字以内、Ｒ８年度は 120 字以上 140 字以内の設問とした。

・無答率は昨年度を上回り、正答率は昨年度の 55.5％から 54.6％と微減した（次ページ参照）。

(3)　外部からの問題に対する評価

・適性検査Ⅰ・Ⅱともに、日常的な事象を取り上げ、探究的で児童が興味をもつ内容となっており、解きながら新たな発見のあるよく練られた問題であった。

・教科を横断した出題内容となっており、様々な知識や技能を生かしながら思考する問題であった。

・適性検査Ⅰについては、問題の量、難易度ともによく、各問のバランスもとれていた。

５　まとめ

平均点は、適性検査Ⅰ・Ⅱともに昨年度に比べ上昇した。このことは、選択式で解答する設問が比較的多かったこと、検査Ⅱでは文章で解答する設問が２問と少なかったことが影響していると考えられる。引き続き、適性検査としての妥当性を担保するよう、問題量と問題の質について研究していく。

○適性検査Ⅰ　小問別正答率(%)（網掛けは、言葉で説明する問題　　◆は、選択式問題）

問１	（１）		（２）			
	投票	開票	①	②◆	③◆	④
			あ			い
	52.5	68.5	82.0	91.0	91.5	60.0

問２	（１）	（２）				（３）			
		①	②	③◆	④◆	①			②
		あ	い	う		え	お	か	き
	50.5	76.5	84.0	50.0	53.5	59.0	90.0	86.5	60.5

問３	（１）		（２）			（３）		（４）
	①	②	①◆	②◆	③	①	②	
	あい							
	77.0	95.5	71.0	38.0	49.5	27.0	77.5	65.1

問４	（１）		（２）	（３）		（４）
	あいう◆	えお◆		か	き	
	70.0	70.5	14.5	40.5	39.5	54.6

○適性検査Ⅱ　小問別正答率(%)（網掛けは、言葉で説明する問題　　◆は、選択式問題）

問１	（１）		（２）	（３）		（４）	
	①	②		①	②	①	②
							あい◆
	54.5	56.5	49.5	8.5	40.0	37.0	77.0

問２	（１）				（２）				
	あ◆	い◆	う◆	え◆	①			②	③◆
					オ◆	カ◆	角度		
	96.5	96.5	91.0	92.0	76.0	83.0	29.5	7.0	23.5

問３	（１）		（２）		（３）				
	重さ	数	①	②	①	②◆	③◆	④	⑤
					あ			え	
	56.0	48.0	17.0	18.0	7.0	95.5	75.0	84.5	92.5	53.3

問４	（１）						
	①◆		②				
			あ	い◆	う	え◆	お◆
	64.0	47.5	98.0	97.5	93.5	96.0	94.0

（２）				（３）			
①	②	③	④	こ◆	さ◆	し◆	す
大	かき◆	く	け				
85.0	49.5	5.5	80.0	85.5	83.5	82.5	29.2